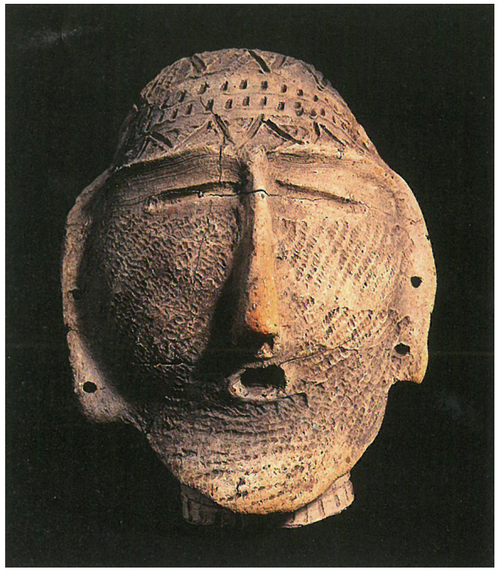
弥生～古墳時代
約2400年前～西暦600年ごろ

市内に残る古墳から見えてきた有力者の誕生

調査が進む弥生時代の生活と墓のあと

米づくりなどの技術が大陸から伝わった弥生時代。深いみぞで囲まれた集落が「ムラ」や「クニ」と呼ばれるようになり、全国でその地域の有力者たちのお墓がつくられるようになりました。

栃木市内では弥生時代のムラのあとは確認されていませんが、西方町の弥八田遺跡と大塚町の大塚古墳群内遺跡では、弥生時代のお墓が発見されました。下の写真は墓に埋めた死者の上に置いてあった土器です。死者の顔を表したのでしょうか。

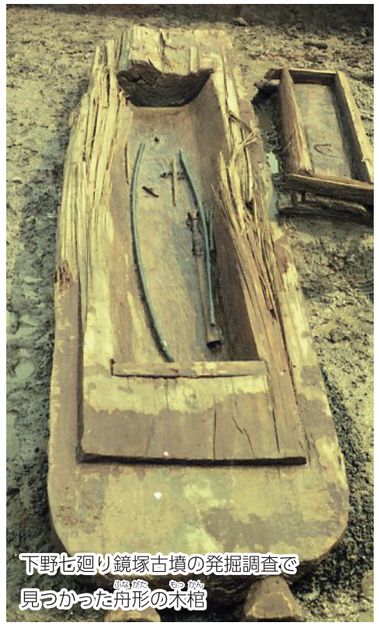


▲大塚町の大塚古墳群内遺跡で見つかった人面付土器

市内の古墳から貴重な副そう品が出土！

3世紀中ごろになると、大和地方（現・奈良県周辺）にかぎ穴のような形をした前方後円墳が出現します。古墳はその後各地に広がり、九州から東北まで大小さまざまな古墳がつくられるようになります。古墳には前方後方墳のほか、円墳（丸い古墳）、方墳（四角い古墳）などの種類があり、日本国内には約16万もの古墳が残っているといわれています。

栃木市にも多くの古墳が確認されました。なかでも代表的な古墳が、大平町の下野七廻り鏡塚古墳です。この古墳は、直径約28mの円墳で、中から木製のひつぎに入った人骨と、刀やうるしぬりの弓と鉄の矢、くし、首かざり、馬具などが見つかりました。木製のひつぎが残っていることは少なく、死者のほうむり方がわかった貴重な古墳です。調査の結果、人骨は40歳前後の男性と推定され、いっしょに入れられた副そう品から6世紀中ごろにつくられた地域の有力者のものだと考えられています。



下野七廻り鏡塚古墳の発掘調査で見つかった舟形の木棺

▲下野七廻り鏡塚古墳から出土したかざり付きの大刀
（おおひら歴史民俗資料館に展示）

…Column 教えて！とち介…

栃木市にはどんな古墳があるんだろう？

渡良瀬遊水地に近い山王寺大桝塚古墳は、四角と台形の盛り土をつなぎ合わせた「前方後方墳」です。4世紀後半ごろにつくられた、武人のお墓ではないかといわれています。また大光寺町にある吾妻古墳は前方後円墳で、栃木県内で最大の古墳として、国指定の史跡になっています。

山王寺大桝塚古墳